

令和 5 年 5 月 29 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K01021

研究課題名（和文）フランス奴隷貿易と国際商業都市ナントの海運ネットワーク

研究課題名（英文）The French Slave Trade and the Shipping Network of the International City :  
Nantes

研究代表者

大峰 真理 (OMINE, Mari)

千葉大学・大学院人文科学研究院・教授

研究者番号：70323384

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的はフランス奴隷貿易の進展と国際商業港ナントの海運ネットワークとの関連を解明することである。申請者は史料「船舶艀装申告書」を網羅的に調査・分析し、アンティル諸島貿易、アイルランド貿易、リスボン貿易に従事するナントの海運業者、両替商、薬種・繊維製品取扱業者によるネットワーク構築を描出した。しかし2020年初めから世界的にまん延したCOVID-19感染症は現地調査を不可能にしたので、申請者は研究方法を変更し、デジタル史料の調査に着手した。とくにグアドループ島プランテーション経営に着眼し史料調査を進めた。その結果、環大西洋商業圏海運ネットワークの論証が進み、その成果の一部を公開した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、これまでもっぱら「奴隷貿易港ナント」として理解されてきた港湾都市ナントが多様で広域的な海運事業ネットワークを構築していたことを実証的に解明した点にある。くわえて、近世フランスの実業家たちが自らの出身地や宗派等を抛り所にしながら事業者集団の形成に専心した様子は、現代社会における人的結合のあり様と特質を歴史的に理解する助けとなる。これが、本研究の成果が含みもつ社会的意義である。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify the relationship between the progress of the French slave trade and the shipping network in Nantes, an international commercial city. The principal investigator researched and analyzed the historical document "Ship Outfitting Declaration" and depicted the construction of a network of shipping agents, money changers and pharmaceutical and textile dealers. They engaged in trade to the Antilles, to Ireland and to Lisbon. On the other hand, the spread of worldwide COVID-19 infection made it impossible to conduct field surveys. The investigator changed the research method, switched to digital material analysis and focused Guadeloupe plantation management. As a result, the investigator succeeded in demonstrating the maritime network built in the Transatlantic commercial zone in the 17th and 18th century and published a part of the research.

研究分野：近世フランス国際商業

キーワード：近世フランス 国際商業 ナント 奴隷貿易 ヨーロッパ沿岸貿易 アンティル諸島貿易 貿易商人  
プランテーション経営

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究には二つの学術的背景がある。第一はフランス奴隷貿易の進展に関する研究史である。1930年代から始まった研究は2000年代初頭まで成果を積み上げてきたが、その後、一次史料の調査・分析が進まず、奴隷貿易研究は停滞した。第二はナント海運業の歴史に関する研究史である。1960年代からおこなわれた精緻な実証研究は、18世紀後半の経済的発展を解明したが、その一方で、代表的研究者による「18世紀前半については史料が著しく欠落している」という指摘が無批判に継承され続けたため、経済的発展の前段階を解明しようと試みる研究者は現れなかった。

そこで申請者は、「奴隷貿易研究の停滞」と「18世紀前半のナント海運業研究の不在」に着眼し、ロワール=アトランティック県文書館(ナント)に保管される歴史史料の網羅的調査と整理に着手して、既存の研究を補完する計画を立案した。

### 2. 研究の目的

上述の学術的背景をもつ本研究の目的は、フランスによる奴隷貿易の進展と国際商業都市ナントによる海運ネットワーク構築との関連を明らかにすることである。

申請者はすでに、複数の科学研究費補助金を活用しフランス奴隷貿易研究を行ってきた。近年は、同貿易の発展を牽引した港町ナントの県文書館に保管される一次史料の実状把握に努めている。その結果、これまで「著しく欠落している」と指摘され続けてきた18世紀前半についてもほぼ完全なかたちで多様な史料 - とりわけ「船舶艤装申告書」 - が保存されていることをつきとめた。

そこで申請者は本研究を通じて、これまで行ってきた史料調査をさらに継続し、網羅的な調査・整理・分析を深化させ、ナントの海運業者たちが構築する事業ネットワークの全体と奴隷貿易の進展との関連を解明することを目的として定めた。

### 3. 研究の方法

#### (1) 概要

申請者は、18世紀前半(1694~1744年)にナントを出港した船舶情報の網羅的調査と整理をおこなう。船舶総数は3,898隻である。その後、史料全体を総覧し、アンティル諸島直行貿易従事者とアンティル諸島(とくにサン=ドマング)プランテーション経営者(または現地代理人)アイルランド貿易従事者と両替・銀行商およびプランテーション経営者(または現地代理人)リスボン貿易従事者と葉種・繊維製品取扱商人、という3集団を抽出する。くわえて、別種の一次史料-教区簿冊と公証人文書など-を調査・整理・分析し、ビルバオ貿易従事者カディス貿易従事者ダンケルク貿易従事者の実像を解明する。多様な事業者集団を個別に抽出することと彼らの相互関係を観察することをつうじて、港湾実業界の実態にせまる。

#### (2) 詳細

調査・整理・分析の対象とするおもな史料群は、以下のとおりである。

#### 【ロワール=アトランティック県文書館】

船舶艤装申告書      Série 120J  
公証人文書            Sous-série 4E  
教区簿冊              Fonds Freslon

#### 【ダンケルク市文書館】

租税台帳

#### 【ビルバオ デウスと大学図書館、バスク大学図書館】

都市古地図、港湾古地図、海図  
家系関連史資料

#### 【カディス 外務省文書】

領事記録

#### 【カディス 海の博物館】

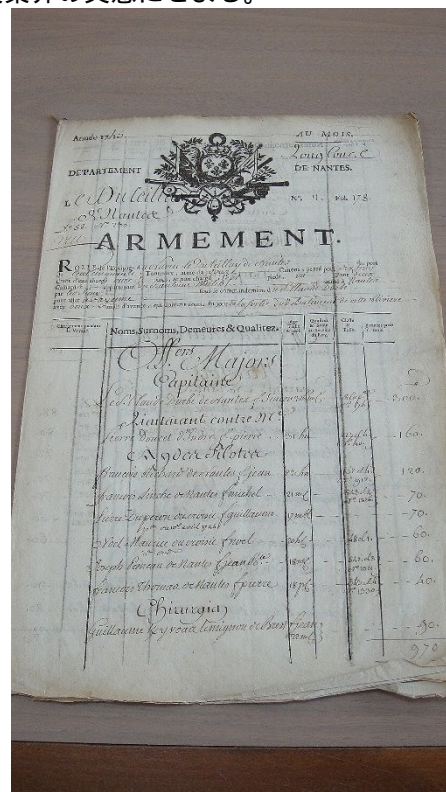
都市古地図、港湾古地図、海図  
船舶関連史資料

#### 【アイルランド ダブリン国立図書館手稿文書保管局】

家系関連史資料  
教区簿冊

#### 【アイルランド コーク市古文書館】

租税台帳  
土地登録簿



## 4. 研究成果

### (1) 2018年度

ビルバオ貿易とカディス貿易の内実を可視化するための作業を進めた。具体的には、すでに入手済みの「船舶艀装申告書」のうち、ビルバオおよびカディスを目的地とする船舶を描出して整理した。また、ロワール＝アトランティック県文書館が保管する公証人文書と教区簿冊を確認し、貿易商人の実像と活動に関する情報を整理した。

くわえて、現地調査期間中にフランス人研究者と協議する機会をもち、本研究計画中にフランスでの出版が可能になるよう打ち合わせた。

### (2) 2019年度

引き続き史資料の調査・整理を進めると同時に、アンティル諸島直行貿易とサン＝ドマングプランテーション経営者に関する分析結果を学術論文としてまとめ公表した。具体的には、18世紀半ばから後半にかけて活躍した貿易商人が書き残した『回顧録』の分析である。『回顧録』という史料は、サンプル数が少ないことに加え、これまでの研究史ではフランス本国においても本格的に分析されることはなかった。「自らを語る」回顧録を批判的に分析し、18世紀後半の海港都市における実業界の実像を描出することができた。

### (3) 2020年度

当該年度は、現地での一次史料調査とダンケルク貿易の内実を可視化するための作業を予定していたが、2020年2月からまん延したCOVID-19感染症により海外渡航が完全に閉ざされてしまった。そのため研究方法と計画を変更しなければならなかった。具体的には、オンラインで公開されているデジタル資料の調査と整理を試みたが、17～18世紀に関する史料のデジタル化はまだ十分には進んでおらず、現地調査に代わる成果を得ることは困難だった。

また、すでに手元にある（現地調査の必要がない）一次史料を総覧しダンケルク貿易の実態を分析しようと試みたが、2020年度新学期から急きょ対応が必要となったオンライン講義と演習の準備・実施・運営に長大な時間を割かなければならなかったため、史料分析と考察を進め論文としてまとめる時間的な余裕が全くなかった。

他方、オンラインで入手できた史資料を手がかりに「17～18世紀アンティル諸島のさとうきび農園主と代理商」に関するあたらしい知見をえて整理することはできたので、この成果を論文にまとめる計画を立てた。

### (4) 2021年度

当初の計画では、当該年度は「2020年度の計画に基づいてその成果を発表すること」としていたが、2020年度の計画それ自体がCOVID-19感染症拡大の影響を受け停滞した。くわえて、2021年度中も感染症拡大がおさまらず地球規模で移動の自由が著しく制限されたため、現地調査を前提とする研究計画はとん挫した。

しかしそうした状況下でも、現状打破のために奴隷貿易と国際商業に関連する史資料の所蔵先調査とデジタル化の程度についての調査を重ねた。その結果、カリブ海のグアドループ県文書館が提供するデジタル資料公開サービスを活用すれば、現地に行けずとも実証研究の可能性が十分にあると判断し、2021年度は同文書館所蔵・提供のデジタル史資料を調査した。それらの整理と分析の成果を「17世紀フランスの初期植民会社と小アンティル諸島」としてまとめ、わが国を代表する歴史講座シリーズ『岩波講座 世界歴史 14 南北アメリカ大陸 ～17世紀』に収めた（2022年2月発行）。

### (5) 2022年度

前年度着手したデジタル史資料の調査を本格的に進めた結果、フランス海外県（とくにグアドループ県とマルティニク県）におけるWEB公開が本土以上に充実していることを確認できた。そこで本年度は、フランスによるカリブ海諸島の植民と奴隷労働力を投入したプランテーション経営についてその進展の歴史を考察することに力点を置いた。とりわけ、グアドループ島におけるさとうきび栽培と粗糖製造の歴史展開の解明に注力した。その結果、王国政府および海港都市による小アンティル諸島植民化の展開を実証的に考察する可能性を確信できた。

### (6) 研究期間全体を通して特筆すべき点

2020年初めから地球規模でまん延したCOVID-19感染症と各国による渡航制限は、研究の方法と計画の変更を余儀なくさせた。実証的な歴史研究のために不可欠な現地での史資料調査が完全に閉ざされたことは、本研究の進捗に大きな影響を与え、当初の計画が完全に果たせたとはいえない。

しかし、オンラインでの研究を強いられた期間は、フランス国立図書館デジタル史資料公開サイト <https://gallica.bnf.fr> やフランス海外県文書館デジタル史資料公開サイト <https://www.archivesguadeloupe.fr>、<https://www.patrimoines-martinique.org> を丁寧に閲覧し実証研究が可能かどうかを見極める貴重な機会になった。すでに紙媒体で収集整理を完了したフランス本土で保管される船舶艀装申告書 公証人文書（会社設立文書、海上保険契約書など） 教区簿冊にくわえ、海外県においてデジタル化され公開された史資料 修道会士による記録簿 公証人文書（土地登録簿、遺産目録など） 農園主による日記、などを整理・分析することを通じて、環大西洋商業圏に構築される海運ネットワークを論証できるだろうという見通しをえた。本研究期間の最終時期 2023年3月に研究会で報告した「フランス・インド会社、ナン

ト港湾実業界、小アンティル諸島プランテーション」は、COVID-19 を乗り越えて確信することのできた【現地調査+ オンライン調査】というあたらしい研究方法とそれがもたらす研究の可能性についての具体的表明である。



典拠：<https://www.schoolmouv.fr/cours/l-abolition-de-l-esclavage/fiche-de-cours>

フランスの高校教科科目【地理歴史】学習支援サイト SchoolMouv

「三角貿易」「奴隷制度廃止」概略図

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 OMINE Mari	4. 巻 未定
2. 論文標題 Les axes recents de la recherche sur l'Ancien Regime par les historiens modernistes japonais	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Presse de l'Universite de Paris Pantheon-Sorbonne:web version	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 2件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大峰真理
2. 発表標題 近世フランス王国におけるカトリック信仰と反革命的運動の展開 - 海溝都市ナント巡見の成果を中心に
3. 学会等名 科研費基盤研究B「社会変容と民衆暴力」第4回カンファレンス（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大峰真理
2. 発表標題 フランス・インド会社、ナント港湾実業界、小アンティル諸島プランテーション
3. 学会等名 国際商業史研究会（招待講演）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 安村直己編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 岩波講座世界歴史 1 4 南北アメリカ大陸～17世紀	

1. 著者名 同志社大学経済学会（大峰真理は「18世紀後半フランス・ナントの奴隷船艦装業者の記録」を執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 同志社大学経済学会	5. 総ページ数 512
3. 書名 『経済学論叢 布留川正博教授古稀記念論文集』	

1. 著者名 金澤周作、古谷大輔編（大峰真理は執筆項目「重商主義論と特権商事会社」担当者）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 340
3. 書名 『論点 西洋史学』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------